



## 交通 人と人をつなぐ交通のまちすいた

人と自然が共生する みち と交通 すべての人に安全で快適な みち と交通  
太陽の塔につながる みち と交通 職・住・学・遊に便利な みち と交通  
人がふれあい、まちがにぎわう みち と交通  
これが、私たちがめざす「人と人をつなぐ交通のまちすいた」です。

### 吹田らしい交通システムを考えよう

#### まちを楽しく歩こう



安全・安心



#### 自転車をもっと利用しよう

くるま社会



#### まちを知るためマップをつくろう

吹田らしさ



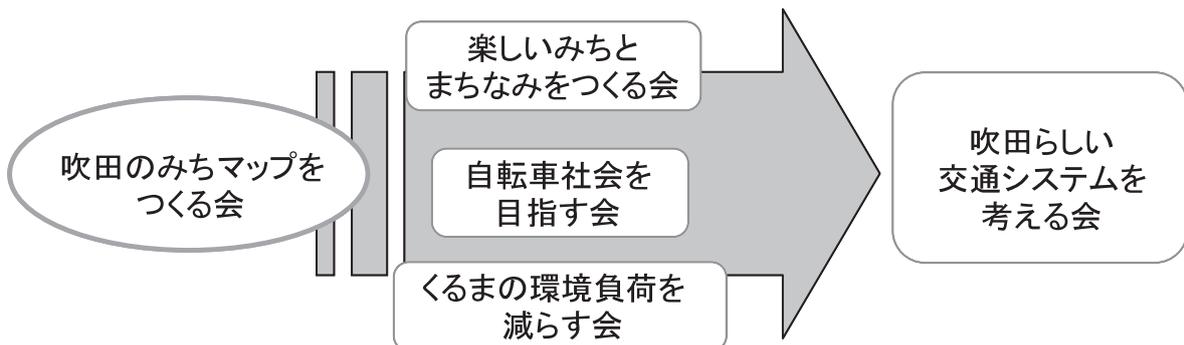
#### くるまの環境負荷を減らそう

利便性

職・住・学・遊

交通

### 交通部会のプロジェクトの関連図



# 吹田のみちマップをつくらう

## ○ 目的・効果

【主たる目的】交通の視点からまちづくりをするための情報の共有化

【波及的効果】人と人との交流ができる、安全に安心して歩けるまち  
交通公害の削減、交通災害の軽減、交通マナーの向上

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

（仮称）吹田のみちマップをつくる会

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 会の結成

「推進組織」のメンバーが中心となって「（仮称）吹田のみちマップをつくる会」を結成する。会は市民の参加を広く呼びかけ、交通の視点からまちづくりの基盤となるマップを作成するために、活動を行う。

### 2. 既存マップとの連携と活動の開始

市内の各種マップを作成している団体と協力し、交通の視点で見直したマップを地域単位で作成する。モデル地区の選定は、市内アンケートや市民要望などにより、地域住民の協力を得て実施する。

### 3. マップの作成

- (1) まちをくまなく歩き、歩く人、住む人にとって大切にしたい場所や景観、雰囲気、みち等を探索する。改善したい箇所や事柄など課題を見つけ出す。
- (2) 自転車でまちを移動しながら、自転車を利用する人にとって道路や自転車道の状況が良いと思われる点、改善したい点を見つける。自転車駐車場やサイクルショップなどの現状も情報収集し、自転車を利用しやすくするための課題を見つけ出す。
- (3) くるまが必要な地域や時間帯、通過交通が与える影響などの現状を知り、くるま・自転車・人がそれぞれ安全に移動するための必要な課題を見つけ出す。駐車場やガソリンスタンドなども情報収集する。

### 4. マップの整理と公開

調査・収集した情報を整理し、さらなる活動にとってのデータベースとして共有する。また、使い勝手がよくて分かりやすい用途別のマップをつくとともに、インターネットも含めて開示し、利用者からの情報も加筆していく。

### 5. マップ作りからの広がり

マップ作りを通して共有できた課題を他のプロジェクトに活かすとともに、活動の輪を広げるためマップを使ったキャンペーンを開催し、他の活動へも参加しやすくする。

## ○ 活動の期間

- 1年目：会の結成と準備期間
- 2年目：マップづくり
- 3年目～：マップ更新

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

- 収入：マップ販売費  
支出：マップ印刷費

## ○ 評価の基準

マップ作成の活動参加者数、アンケート等による調査

# 歩いて楽しいみちとまちなみをつくろう

## ○ 目的・効果

【主たる目的】人が優先され、楽しく歩けるみちとまちなみの形成

【波及的効果】人が行き交いにぎわうまち、緑の創出、景観形成、地域コミュニティの形成

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

（仮称）歩いて楽しいみちとまちなみをつくる会

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 会の結成

「吹田のみちマップをつくろう」参加者や、交通問題に関心がある市民などから参加者を募り、「推進組織」の中に、人にやさしく歩いて楽しいみちとまちなみをつくるため、「（仮称）歩いて楽しいみちとまちなみをつくる会」を結成し、次の活動を展開する。

### 2. 活動内容

先進的な地域やみちに関する取り組みに積極的な地域で以下の活動を行う。

（1）安全な歩くためのみちの整備（バリアフリー化、信号機、・道路標識の整備等）

マップを使い、車椅子体験・高齢者類似体験もかねてスタンプラリーを行う。その際、改善策（ハード面・ソフト面）を提案する。

（2）歩道・自転車道・車道の整備（歩者道分離、車両一方通行、コミュニティ道路等）

（3）楽しく歩くための拠点の設置（まちかどサロン、ポケットパークなど）

（4）みちと周辺の緑化やまちなみ景観の保全

車両通行を一時的にストップさせて、人が歩き、集い、憩うための道にする。

地域住民が自らの手で、道の清掃、歩道の緑の整備を行い、歩者道分離、一方通行、オープンカフェ、オープンギャラリー、まちかどサロンといった短期間のイベントを行う。

さらに、イベント開催時、アンケートやインタビュー、パネル展示等を行って、さらに会の宣伝や仲間集めを行う

### 3. イベントの広がり

ひとつの地域でのスタンプラリーやイベントの実績を他の地域に紹介し、吹田市内に広げていく

## ○ 活動の期間

1年目：会の結成・準備期間

2年目～：スタンプラリーの実施

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

支出：活動費

## ○ 評価の基準

スタンプラリー参加者数、スタンプラリーコメント数

# 自転車のスローライフの輪を広げよう

## ○ 目的・効果

【主たる目的】自転車の利用促進と自転車文化の構築

【波及的効果】交通公害の削減、交通災害の軽減、交通マナーの向上

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

（仮称）自転車社会を目指す会

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 会の結成

「吹田のみちマップをつくろう」参加者や、交通問題に関心がある市民などから参加者を募り、「推進組織」の中に、自転車文化都市・すいたをつくるため、「（仮称）自転車社会を目指す会」を結成し、次の活動を展開する。

### 2. 活動内容

先進的な地域や自転車に関する取り組みに積極的な地域や学校等で以下の活動を行う。

#### （1）情報の共有と公開

自転車利用を促進し、また、自転車とうまく付き合うために、自転車による健康づくりやツーキニスト運動※、ルールやマナーなど自転車に関する勉強会を行う。市民に対して、学校や公民館で勉強した成果を発表すると同時に、行政が行っている自転車に関する業務（自転車免許制度やレンタサイクル）の広報を行う。

#### （2）駐輪場や自転車道、レンタサイクルネットワークの整備

マップを用い、駐輪場や自転車道の改善策（ハード面・ソフト面）を提案する。自転車利用者への得点が得られるイベントや運動を実施する。

### 3. 自転車利用の広がり

自転車に関する発表会やイベント、運動を広げていく。

ツーキニスト運動※：自転車による通勤・通学を進める運動

## ○ 活動の期間

1年目：会の結成・準備期間・勉強会

2年目～：発表会・イベント・運動の実施

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

支出：活動費

## ○ 評価の基準

勉強会・発表会の回数、自転車に関する認識度

# クリーンでグリーンなまちづくりをめざそう

## ○ 目的・効果

【主たる目的】 エコカーライフと自動車抑制による安全で健康なまちの再生

【波及的効果】 CO<sub>2</sub>排出量の減少、大気汚染の軽減、交通事故の軽減

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

（仮称）くるまの環境負荷を減らす会

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民・事業者・行政

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

1. （仮称）くるまの環境負荷を減らす会の立ち上げ  
「推進組織」のメンバーが中心となって交通問題に関心がある市民などから参加者を募り、健康なまちを取り戻すため「（仮称）くるまの環境負荷を減らす会」を立ち上げる。
2. （仮称）くるまの環境負荷を減らす会の活動
  - （1）エコカーライフの実践（エコドライブの啓発、エコカーの普及など）
    - ① パンフレットの配布  
エコドライブ情報パンフレットを作成し、警察等の協力により免許更新の時に配布する。
    - ② ステッカーの販売  
「アイドリングストップ・エコドライブ中」のステッカーを車検時に購入・貼付してもらう。
  - （2）エコドライブセミナーの実施  
自動車教習所と連携して、燃料消費が少ない運転テクニックについての講習会を実施する。  
同時に自動車抑制策（車種規制、共同荷配送システム、ロードプライシング、パークアンドライドを含む駅前駐車場の有効利用等）についての啓発活動を行う。
  - （3）エコカー普及拡大のPR
    - ① エコカードライブ体験（吹田のみちマップ「交通部会」、環境すごろく「環境教育部会」などの利用を検討する。）
    - ② エコカー講座（エコカーの優遇措置や導入検討方法等のアドバイスの講座）
    - ③ エコカー認定証（ステッカー、バッジ、認定証の発行）  
エコカー所有者に配布される名誉ある証。認定証提示で駐車料金割引などのタイアップ事業
    - ④ 環境仕様書の交付  
車両の環境仕様書（その車に関わる環境負荷「排出ガス・騒音・燃料消費」について記載された統一フォーム）を作成し、車両販売時に交付説明してもらう。

## ○ 活動の期間

- 1年目：会の立ち上げ、活動準備  
2年目～：活動展開

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

- 収入：パンフレット・ステッカー類の売上  
支出：パンフレット・ステッカー類作成費用

## ○ 評価の基準

パンフレット・ステッカー類の販売枚数。セミナーの参加人数

## 吹田らしい21世紀型交通システムを考えよう

### ○ 目的・効果

【主たる目的】 これからのまちづくりに寄与する交通システムの確立

【波及的効果】 CO<sub>2</sub>排出量の減少、大気汚染の軽減、自動車利用の抑制、交通渋滞の緩和、  
道路交通の安全

### ○ 誰（と誰）が〈主体〉

（仮称）吹田らしい交通システムを考える会

### ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民・事業者・行政

### ○ 何をするか〈内容・手法〉

「推進組織」のメンバーが中心となって交通の長期的課題に関心がある市民などから参加者を募り、これからの吹田のまちに相応しい交通システムを検討するため「（仮称）吹田らしい交通システムを考える会」を結成し、次の活動を展開する。

1. 問題の抽出・整理、課題設定
  - （1）「吹田のみちマップをつくろう」の成果を活かし、吹田の交通問題を抽出・整理
  - （2）問題に優先順位をつけ、重点活動・対象地域を設定
2. 情報収集と素案づくり
  - （1）対象地域住民・関係事業者・行政に対するヒアリングを実施
  - （2）交通システムに関する各地先進事例、類似事例などを調査・分析（コミュニティバス、LRT, ITS 等）
  - （3）対象地域の交通問題の解決・改善に向け、素案を作成
3. 市民への普及・啓発
  - （1）素案を、パネル・パンフレット等にわかりやすくまとめる
  - （2）市内既存イベント（すいたまつり、産業フェア等）に出展し広く市民に素案を提示普及させる
  - （3）単独イベント（吹田の未来交通を考える市民のつどい（仮称））を開催
  - （4）市民、事業者等の関心を喚起し、考える会メンバーを拡大、素案を改善する
4. 交通社会実験に向けた市民・事業者・行政による三者協議会を結成
  - （1）素案実現に向け、交通社会実験実施を目的とした三者協議会を結成
  - （2）関係住民・事業者と交通社会実験を協議（目的、実施方法、評価手法、期間等）
5. 交通社会実験の実施と効果測定
  - （1）交通社会実験の実施
  - （2）実験結果の分析、効果測定、課題抽出（実験手法の改善検討→場合によっては期間をおいて再実験）
  - （3）実験結果をもとに行政・関係事業者への提言をまとめる
6. 実現に向けた展開
  - （1）提言の実現へ向け、幅広く市民に呼びかけた推進の仕組みをつくる
  - （2）他の地域でも同様の活動を実施する

### ○ 活動の期間

1年目：会の結成、活動準備  
2年目～：問題抽出、課題設定、情報収集、啓発活動、協議会活動、実験

### ○ 予算〈概略：収入と支出〉

支出：市民への普及啓発に関わる費用

### ○ 評価の基準

参加協力者の人数

## ■ プロジェクト概要図

